

美作国創生公募提案事業 事業成果報告書

1 事業名:「美作を世界へ」美作国の現代アートを芸術の都パリで発信！

2 実施団体:美咲芸術世界実行委員会

3 協働担当課:地域づくり推進課

4 事業概要

アートに関心が高く、アートによる発信力が高い芸術の都フランス・パリの中心部にあり、メイン通りに隣接する現代美術施設「59RIVOLI(59 リヴォリ)」(※1)において、美作国を題材とした現代アート展を開催し、美作国を世界に発信した。東京基準ではなく、世界基準で考えるプロジェクトを実施することで、「世界から注目される美作国の現代アート」として国内外で展開し、美作圏域へ人を呼び込むための契機とした。

現代アート展では、2018 年秋に美作圏域で開催される芸術祭「美咲芸術世界2018」のテーマでもある「旅」をモチーフに美作国のイメージを取り入れたファサード(建物正面)(※2)の美術装飾の展示を行うほか、開催式典において、装飾の説明を兼ねたパフォーマンスを行い、イベントによる情報発信を行った。

また、期間中は、美作国の紹介を踏まえた展示会のリーフレットの配布を行うとともに、岡山県で作成しているフランス語版の観光マップも設置・配布し、美作国の魅力を知ってもらおう契機とし、美作国の観光 PR 活動も行った。

注釈)

※1 パリの現代美術施設「59RIVOLI」

ルーヴル美術館、国立近代美術館ポンピドゥー・センターなどが並ぶパリ中心部に位置しており、共同アトリエとギャラリーを兼ね備えた現代のアートシーンをになう新しい現代美術施設として世界中から注目を集めており、フランスの現代美術施設として入場者数第3位の記録をもつ。

常時30人を超える世界各国のアーティストがここにアトリエを構え滞在制作し、芸

術交流の場としてその名を世界的に轟かせ、ギャラリースペースの利用希望者はあとをたたない。

「59RIVOLI」Web サイト <http://www.59rivoli.org>

※2 ファサード

フランスの建築用語で西欧建築の正面、外観をいう。現在では各国語で広く用いられている。道路や広場に面しているのが普通で、建物のいわば〈顔〉として重要な意味をもつ。

「59RIVOLI」においてはこのファサードアートが重要視され、世界各国のアーティストがこれを手がけており、今回、ファサード装飾を「美咲芸術世界」のアーティストに任せられることとなったことは、とても貴重な機会であった。

5 実施内容

パリの現代美術施設「59RIVOLI」にて美咲芸術世界(MISAKI ART WORLD)を代表する岡山県内アーティストがファサード(建物正面)の装飾を手け、美咲芸術世界 2018 のメインテーマ「旅 VOYAGE」をイメージしたファサードアート作品展示を実施した。美咲芸術世界 2018、春のプレオープニング企画として展開し、初日の 5 月 12 日には「アマンジャクの旅」と題したアートパフォーマンスを披露。メンバー、スタッフがパリ各地で観光パンフレットの設置・配布も行った。展示は 2018 年 10 月 31 日まで。

- ・展示会タイトル: Exposition d'art sur la façade du 59Rivoli
- Voyage MIMASAKA, présenté par MISAKI ART WORLD 2018-
(日本語訳) 59 リヴオリファサードアート展「美作国の旅～美咲芸術世界 2018～」
- ・展示場所: フランス、パリ 1 区、リヴオリ通り 59 番地「59RIVOLI」ファサード
- ・展示期間: 2018 年 5 月 12 日～10 月 31 日
- ・展示会開催式典: 2018 年 5 月 12 日(会場: 59RIVOLI ギャラリー内)

16 時よりアートパフォーマンス「アマンジャクの旅」(路上観客数 1000 人以上)
美咲芸術世界の岡山県内アーティスト 8 名がアーティストィックな衣装やお面を着

飾り、美作国の妖怪に扮して、サーカスをイメージしたファサードアート装飾を舞台に 59RIVOLI ギャラリー前の路上でアートパフォーマンスを披露しながら、約 15m×15m のファサードアート作品を紹介した。

18 時より 20 時までオープニングセレモニー（ギャラリー来場者数約 200 人）

美咲芸術世界の岡山県内アーティストが 59RIVOLI ギャラリー内でファサードアートにまつわる滞在制作作品を展示。館内で 2018 年秋の「美咲芸術世界 2018」の開催を告知し、フランス語版の美作国観光マップを配布して美作国の魅力を紹介した。



↑ファサードアート作品展示風景



↑ 59RIVOLI 通り風景とファサードの装飾



↑ファサードを舞台に見立てた演出



↑ ギャラリー正面でのアートパフォーマンス



↑ ギャラリー内展示風景



↑ ギャラリー正面でパンフレット配布

6 事業実施による成果、効果、今後の課題

(1) 成果、効果

パリでの事業実施をうけ、2018年9月23日から10月28日の会期で開催された「美咲芸術世界 2018」により、この芸術交流を契機とした訪問者や滞在制作者が美咲町に数多く来訪した。（*2018年5月12日～10月31日の来訪者数：約11,800人）

「美咲芸術世界 2018」では現代アートを契機とした地域資源の掘り起こしを目的とした地域住民参加型の舞台公演や各種アートワークショップなど様々なプログラムを通して、世界のアーティストと地元住民、来場者がともに創作活動を行う滞在型交流や、アーティストが滞在制作した作品展示を鑑賞しながら観光地を巡るといった観光客等の交流人口が増加し、地域のにぎわい創出に繋がった。

また、こうした交流を通じて、地域で創作活動を行うために滞在するアーティストがリピーターとなり、地域の共同体の中に参加するようになり、地域に足繁く通う来訪者が増えている。また、アーティストに限らず、学生が夏休みを利用したり、社会人が休日を利用したりなどして地域に来訪し、創作活動に励むなど、アートを介した地域への来訪が増えつつある。

その他、パリで「美作国の現代アート」を発信したことにより、パリ芸術大学の学生が来訪したり、東京国際フランス学園（インターナショナルスクール）の学生が団体に体験研修をしに地域を訪れるなど、海外でのPR効果は大いなる結果をもたらしたと言える。

9月15日には津山市にてパリで行われた本事業の内容を踏まえたアーティストトークと作品展示（展示は9月15日～10月28日）、パリでの記録映像を編集した映像を公開した。なお、同9月15日から10月14日まで、美咲芸術世界 2018 東京展も同時開催した。また、これらの実施状況をフェイスブックなどで随時配信し、世界に向けて美作の現代アートを発信するなど、本事業のPR活動も各地で幅広く実施することができた。なお、「美咲芸術世界 2018」のリーフレット、ポスターの表紙に

はパリのファサード装飾の画像を大々的に使用し、各地で配布された。

パリでのファサード装飾は「美咲芸術世界 2018」の終了時期(最終日は 10 月 28 日)に合わせ、10 月 31 日まで展示の予定であったが、パリにおけるファサード展示に対する多大なる評価と、59 リヴオリのアーティストたちによる強い要望で、一部撤去したものの、修正を加え、来年の「美咲芸術世界 2019」の開催を目指して「美作国の旅～美咲芸術世界 2019～」とリニューアルして継続展示することとなった。事業が終了した現在、数多くのパリのアーティストたちがこの「美咲芸術世界 2019」への参加を求め、美作国の芸術の聖地、美咲町の来訪を希望している。

(2) 今後の課題

美咲町などの山間地での課題は交通の便と宿泊施設の問題である。海外から、東京などの遠方からの来訪者が車で来ない場合、随時送迎して対応しなければならない。「美咲芸術世界 2018」の来場者に関しては、現地スタッフで連携を取りながら対応している。宿泊施設が会場から離れている場合も送迎の対応が必要になる。これらの課題に関しては、やはり地元住民や地元企業(バス会社やタクシー会社など)と連携をとる仕組みが必要であり、県民局に期待する役割の具体例として、「美作地域の観光地とアートを巡る旅プラン」や「県南と県北を結ぶ観光地とアートを巡る旅プラン」等の周遊ツアーの造成、旅行会社等への働きかけなど行政の協力が不可欠であり、地域の協力体制を整えることが必要である。

7 県民局と協働した効果及び課題

今回、県民局との協働により、パリでのファサード展示を契機として、パリとの芸術交流を成熟させ、「アートのまち美咲町、アートのくに美作国」を世界に向けて発信することで、アートに関心を持つ人を美作国に呼び込むことができた。

美作国の PR による観光誘客だけでなく、「美咲芸術世界 2018」への訪問や滞在型交流者の呼び込みといった具体的なイベントの集客を行い、美作圏域の交流人口の増加に繋げることができた。今後どのようにこの効果を広げ、事業を継続していくかが課題である。

来年 2019 年は瀬戸内国際芸術祭も開催されることを踏まえ、来訪者の県南と県北の周遊を促すために、本事業の実施母体である美咲芸術世界を拠点とし、「世界の芸術家が集う美作国」として美作圏域内の各箇所で現代アートを展開して

ゆくための地域資源の掘り起こしを進めながら、広域的な事業展開を県民局と共に行い、さらなるアートを介した美作国の地域創生を实践したい。

世界から注目が集まる2020年の東京オリンピックを視野に入れ、着実に美作圏域の各地域と連携を取つつ、今後もこのようなパリとの芸術交流を通じて、世界各国の参加・協力アーティストとのネットワークを拡大してゆき、美作圏域への交流人口を増やし、現代アートによるまちづくりを推進してゆきたい。